

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（6年10月判断）	今回（7年1月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）7年1月判断は、前回6年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、スーパー販売が前年を下回っていることなどから、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、電子部品・デバイスが海外の自動車向けで弱い動きとなっているものの、生産用機械、輸送機械が持ち直していることから、持ち直しつつある。雇用情勢は、有効求人倍率がおおむね横ばいとなっており、企業の人手不足感が引き続き高い状況にあるなど、緩やかに持ち直している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（6年10月判断）	今回（7年1月判断）	前回比較
個人消費	回復に向けたテンポが緩やかになっている	回復に向けたテンポが緩やかになっている	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	↗
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	6年度は増加見込み	6年度は増加見込み	→
企業収益	6年度は増益見込み	6年度は増益見込み	→
企業の景況感	「下降」超幅が不変	「下降」超幅が縮小	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→
公共事業	前年度を上回っている	前年度並みとなっている	↘

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、アメリカの政策動向、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「回復に向けたテンポが緩やかになっている」

スーパー販売は主力の飲食料品が伸び悩んでいることなどから、前年を下回っている。百貨店販売は衣料品等が低調となっており、前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は米飯類が低調となっているものの、カウンター商品が堅調となっており、前年並みとなっている。ドラッグストア販売は飲食料品や日用品などが好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売は暖房器具等が伸び悩んでおり、前年を下回っている。家電大型専門店販売はエアコン等が低調となっており、前年を下回っている。乗用車販売は買い替えの動きが鈍いことなどから、前年を下回っている。旅行は国内旅行が緩やかに回復しつつあるほか、海外旅行にも動きがみられる。このように、個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 年末年始は高価格な食材が好調だったものの、日々の生活では節約志向が続いている。(スーパー)
- 高価格な衣料品は、節約志向により買い控えがみられるほか、セールを見越して購入を先延ばしにしている顧客もいる。(百貨店)
- 初売りは売上げ、客数ともに前年を上回ったほか、高価格な体験型福袋の成約があるなど総じて好調となった。(百貨店)
- 米飯類は、弁当から低価格帯のおにぎり等へのシフトが進んでいる。一方、カウンター商品は、お得なクーポン企画が好調となり売上げの増加につながっている。(コンビニエンスストア)
- 飲食料品や日用品を安く提供していることが顧客誘引につながっている。(ドラッグストア)
- 気温が高く推移したことにより、暖房器具、防寒作業着などが低調だったものの、足下では気温の低下に伴い需要が戻りつつある。(ホームセンター)
- エアコンと冷蔵庫では、県が実施した省エネ家電購入応援キャンペーン等により前年に買い替えが進んだ反動がみられ、低調となっている。(家電量販店)
- 自動車の需要は底堅いものの、車両価格の上昇に加え、新型車の投入といった購買意欲を刺激する動きがみられないこともあり、買い替えが進んでいない。(業界団体)
- 国内旅行のマインドは高く、旅行者は多少の値上がりを気にせず旅行にお金を使う傾向がみられる。海外旅行は近場の台湾やタイなどが人気となっている。(旅行代理店)
- この年末年始は日並びが良いことから、帰省客の宿泊も多く、客室はほぼ満室となっている。(観光協会)
- イベント開催や旅行需要の高まりを受けて観光客が増加していることから、飲食店の売上げは好調となっている。(専門店)

### ■ 生産活動 「持ち直しつつある」

電子部品・デバイスはデータセンター向けが増加しているものの、海外の自動車向けで弱い動きとなっている。輸送機械は国内向けを中心に持ち直している。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける需要を背景に持ち直している。このように、生産活動は、持ち直しつつある。

- データセンター向けは、AI（人工知能）需要の伸長により、足下で生産量を増加させている。(電子部品・デバイス)
- 車載部品は、世界的なEV（電気自動車）需要の鈍化を背景に落ち込んでおり、生産量を減らしている。(電子部品・デバイス)
- 生産再開後は挽回生産のため生産能力目一杯のフル稼働で対応している。(輸送機械)
- 海外の半導体メーカーによるAI（人工知能）需要等を背景とした設備投資により、生産量は増加している。(生産用機械)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっており、企業の人手不足感は引き続き高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 物価高騰や人件費上昇などによる収益悪化を受け求人控える傾向は継続しているが、一部では賃金等の労働条件の改善が従業員の定着につながり人手が充足した企業もある。(公的機関)
- 業績は悪化しているものの、業界団体や労働組合からの要望、雇用の維持や新規採用者の確保のため、6年度に続き7年度も賃上げを予定している。賃上げの効果により求人に対する応募が増え採用がしやすくなっている。(業務用機械)
- 最低賃金の引上げにより、配偶者の扶養の範囲内で勤務するパートタイム労働者の働き控えが生じている。対象者には社会保険加入を提案したが、扶養手当等のメリットの方が大きいことなどを理由に断られた。(小売)

- 設備投資 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期
  - 製造業では、情報通信機械等で減少見込みとなっているものの、輸送用機械、非鉄金属等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
  - 非製造業では、農林水産等で減少見込みとなっているものの、小売、金融・保険等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 新製品の生産等に係る投資により、増加する見込みとなっている。(輸送用機械)
- 食品製造工場や新店舗の建設などにより、増加する見込みとなっている。(小売)

- 企業収益 「6年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期
  - 製造業では、木材・木製品等で減益見込みとなっているものの、非鉄金属、化学等で黒字転化見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
  - 非製造業では、専門・技術サービス等で減益見込みとなっているものの、運輸・郵便、農林水産で黒字転化見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

- 企業の景況感 「『下降』超幅が縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期
  - 現状(6年10~12月期)は、「下降」超幅が縮小している。先行きは、「下降」超で推移する見通しとなっている。

- 住宅建設 「前年を下回っている」
  - 新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、分譲いずれも前年を下回っている。

- 物価上昇に賃上げが追い付いていないことから、住宅の購入意欲は依然として低い状況にある。(建設)

- 公共事業 「前年度並みとなっている」
  - 前払金保証請負金額は、市町村などで前年度を上回っているものの、国で前年度を下回っており、全体では前年度並みとなっている。

- 消費者物価 「前年を上回っている」
- 金融 「貸出金残高は、前年を上回っている」
- 企業倒産 「件数、負債総額とも前年を上回っている」

### 3. 各県の総括判断

	前回 (6年10月判断)	今回 (7年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は回復に向けたテンポが緩やかになっており、生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しており、生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は横ばいの状況にある。
岩手県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費、生産活動は持ち直しており、雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田県	持ち直しつつある	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は一進一退の状況にあり、生産活動は持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は横ばいの状況にある。
山形県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は横ばいの状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
福島県	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	横ばいの状況にある	➡	個人消費は足踏みの状況にあり、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。